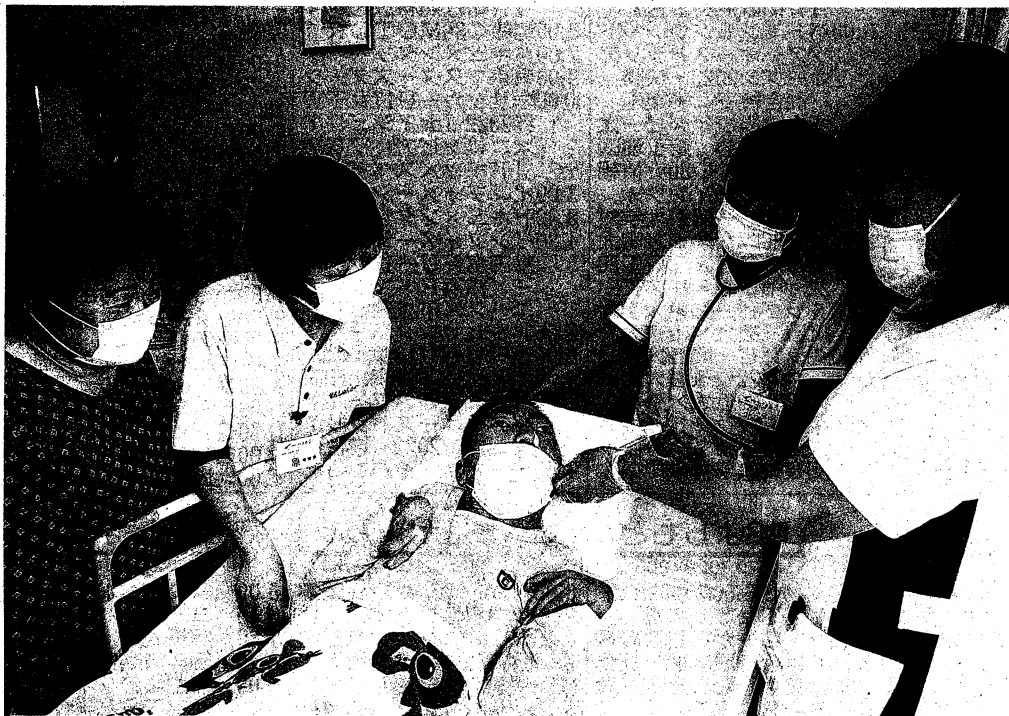


京都新聞 4/27 医療

医療的ケア障害者 短期入所で支援

医療的ケアを必要とする障害者を介護老人保健施設のショートステイ（短期入所）で受け入れる取り組みが、乙訓地域で始まった。介護家族の役割の一部を担うことで、家族に何かあった時に代わりになる体制づくりや負担軽減につながることを期待されている。

乙訓の老人保健施設 取り組み



乙訓地域で初めて障害者の医療型短期入所を利用した古田祐基さん(中央)。看護師の安村さん(右)は慣れた手つきで経管栄養の注入を行う＝11月11日、長岡京市久貝介護老人保健施設「春風」

医療的ケアは、たん吸引や経管栄養の注入など日常生活を送る上で必要な医療的援助を指す。これまでは主に障害者の家族が担い、日中は福祉施設の職員も行っていた。

乙訓地域では、医療的ケアが必要な障害者を夜間に受け入れる病院や施設がなく、介護家族は片道1時間かけて、短期入所できる京都市や城陽市の病院に通っていた。だが、送迎負担が大きくなり、利用しにくかったという。

2市1町でつくる乙訓圏域障がい者自立支援協議会では、専門委員会が2019年から乙訓地域での医療型短期入所の実施に向け、複数の病院と協議してきた。医療法人社団「千春会」が運営する介護老人保健施設「春風」（長岡京市久貝）が10月から医療型短期入所を始めた。

春風の入谷卓也統括マネージャーは「看護師や介護士が24時間常駐し、グループ病院の支援があ

家族の負担軽減 たん吸引や栄養注入担う

る。高齢者に医療的ケアをしてきた実績もあり、受け入れを決めた」と話す。

1人目のモデルケースとして短期入所したのは、脳性まひのある古田祐基さん（25）。長岡京市神足。顔の表情を動かさず、声を出すが、首からは動かない。

担当した看護師の安村若美さん（52）は、祐基さんの反応を見ながら慣れた手つきで経管栄養の注入を行った。「高齢者へのケアと違いはなく、戸惑いはない。家族のアドバイスを介護職や看護師、リハビリ職の全員で共有している」と話す。

まずは3時間の入所から始め、泊まり利用を見据える。

母親の真美さん（56）は、祐基さんが短期入所できる受け入れ先を探し、府内の3病院に通ってきた。しかし入所枠が少なく、不安を抱えていた。「自分が介護できない時、地域に受け入れてくれる施設があると安心できる。相談もしやすい」と話。

入谷統括マネージャーは「乙訓の障害者と家族にとって安心して利用できる環境にしていきたい」と今後を展望している。

（古市大）